



倫敦にて（舊作）

村上喜貞

日の目見ず幾日過ぎけむ
大きな都霧にこもりて年くれむ
あかつきの灯をけしたれば
この都屋やくまぐまゆ霧湧きて来るがに
けふも霧爐を焚くこそを何よりの心なぐさに起きいでにけり
窓の外の霧にそむきてあかき火の爐にむかへぎも心なごます
爐の煖は白くなりたりふたゝびはこゝに來がたき齡をおもふ
霧の日の正午しばらく明るきに窓邊にうがら晝けを食しけり
朝よりは霧あさからしなか空の淡き黄ばみに日のありか見ゆ
霧のふる大路に花の透き見ゆる花屋の玻璃戸行き過ぎかねつ
霧ややに霽れつ花屋のがらす戸に白く浮けるはむろ咲きの薔薇
霧はれしけふのひま時公園にいぎりす人もわれものさなり